

## イラリス皮下注射液 150mg 適用各疾患における使用上の注意 ①

### 【効能または効果】

- 以下のクリオピリン関連周期熱症候群
  - ・ 家族性寒冷自己炎症症候群
  - ・ マックル・ウェルズ症候群
  - ・ 新生児期発症多臓器系炎症性疾患
- 高 IgD 症候群（メバロン酸キナーゼ欠損症）
- TNF 受容体関連周期性症候群
- 既存治療で効果不十分な下記疾患
  - ・ 家族性地中海熱
  - ・ 全身型若年性特発性関節炎
  - ・ 成人発症スチル病
- シュニッツラー症候群

### 【用法および用量】

#### <クリオピリン関連周期熱症候群>

通常、体重 40kg 以下の患者にはカナキヌマブ（遺伝子組換え）として 1 回 2mg/kg を、体重 40kg を超える患者には 1 回 150mg を 8 週毎に皮下投与する。十分な臨床的効果（皮疹及び炎症症状の寛解）がみられない場合には適宜漸増するが、1 回最高用量は体重 40kg 以下の患者では 8mg/kg、体重 40kg を超える患者では 600mg とする。最高用量まで増量し、8 週以内に再燃がみられた場合には、投与間隔を 4 週間まで短縮できる。なお、症状に応じて 1 回投与量の増減を検討すること。

#### <高 IgD 症候群（メバロン酸キナーゼ欠損症）>

通常、体重 40kg 以下の患者にはカナキヌマブ（遺伝子組換え）として 1 回 2mg/kg を、体重 40kg を超える患者には 1 回 150mg を、4 週毎に皮下投与する。十分な臨床的効果がみられない場合には追加投与又は適宜漸増するが、1 回最高用量は体重 40kg 以下の患者では 6mg/kg、体重 40kg を超える患者では 450mg とする。

#### <TNF 受容体関連周期性症候群および既存治療で効果不十分な家族性地中海熱>

通常、体重 40kg 以下の患者にはカナキヌマブ（遺伝子組換え）として 1 回 2mg/kg を、体重 40kg を超える患者には 1 回 150mg を、4 週毎に皮下投与する。十分な臨床的効果がみられない場合には追加投与又は適宜漸増するが、1 回最高用量は体重 40kg 以下の患者では 4mg/kg、体重 40kg を超える患者では 300mg とする。

**<既存治療で効果不十分な全身型若年性特発性関節炎および成人発症スチル病>**

通常、カナキマブ（遺伝子組換え）として1回4mg/kgを、4週毎に皮下投与する。1日最高用量は300mgとする。

**<シュニッツラー症候群>**

通常、成人にはカナキマブ（遺伝子組換え）として体重40kg以下の患者では1回2mg/kgを、体重40kgを超える患者では1回150mgを8週毎に皮下投与する。十分な臨床的効果がみられない場合には追加投与又は適宜漸増するが、1回最高用量は体重40kg以下の患者では4mg/kg、体重40kgを超える患者では300mgとする。